

(様式6-1) 社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	49 安全で快適な都市空間の形成												
計画の期間	平成25年度 ~ 平成29年度 (5箇年)					交付対象	静岡県、沼津市、三島市、菊川市、掛川市						
計画の目標	都市計画道路（自転車歩行者道含む）を整備することにより、交通事故のない安全で快適な自転車・歩行者空間を確保する。												
計画の成果目標（定量的指標）	津波・洪水等による浸水被害を軽減させる。 防災機能強化の進捗及び住民の防災意識向上を図り、安全に避難できる人口を増加させる。												
定量的指標の定義及び算定式										定量的指標の現況値及び目標値		備考	
										当初現況値 (H25当初)	中間目標値 (-)		最終目標値 (H29末)
①	歩道整備済（簡易整備を含む）の道路延長を調査し、歩道整備率を算出する。 (歩道整備率) = (歩道整備済延長) / (通学路延長 (H24交安法指定)) ×100									71.0%	-	75.0%	
②													
③													
全体事業費	合計 (A+B+C)	6,838 百万円	A	6,838 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)		0%		

静岡県社会資本整備重点計画における位置づけ											
第2期 (H20~H24)						第3期 (H25~H29)					
分野名						分野名					
目標名						目標名					
指標名	目標値 (H24)					指標名	目標値 (H29)				

事後評価

1. 交付対象事業の進捗状況 (○：計画期間中に完成 △：計画期間終了後に完成見込 (備考欄に完成予定時期を記入、未定は空欄) -：その他 (備考欄に具体的に記入 (中止、未実施等))
(計画期間中に他の整備計画に移行したもので、 ●：本計画の期間中に完成 ▲：本計画の期間終了後に完成見込 (備考欄に完成予定時期を記入、未定は空欄))

交付対象事業													全体事業費 (百万円)	進捗 状況	備考			
A1 道路事業																		
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業 者	道路 種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)							
											H25	H26	H27	H28	H29			
49-A1	街路	一般	静岡県	直接	静岡県	S街路	改築	(都) 本市場大淵線 (伝法工区)	バイパス L=0.83km	富士市						787	▲	R2
49-A2	街路	一般	静岡県	直接	静岡県	S街路	改築	(都) 西間門新谷線 (4工区)	現道拡幅 L=0.40km	清水町						1,082	▲	R5
49-A3	街路	一般	静岡県	直接	静岡県	S街路	改築	(都) 金岡浮島線	バイパス L=0.57km	沼津市						742	△	R2
49-A4	街路	一般	静岡県	直接	静岡県	S街路	改築	(都) 池新田中央線	現道拡幅 L=0.58km	御前崎市						144	○	
49-A6	街路	一般	静岡県	直接	静岡県	S街路	改築	(都) 新所原岡崎線 (2工区)	現道拡幅 L=0.13km	湖西市						35	△	
49-A7	街路	一般	静岡県	直接	静岡県	S街路	改築	(都) 葛川下俣線	バイパス L=0.18km	掛川市						498	○	
49-A8	街路	一般	静岡県	直接	静岡県	S街路	改築	(都) 袋井駅森線	現道拡幅 L=0.42km	袋井市						183	▲	R1
49-A9	街路	一般	静岡県	直接	静岡県	S街路	改築	(都) 小立野豊田線	現道拡幅 L=0.70km	磐田市						450	△	R2
49-A10	街路	一般	静岡県	直接	静岡県	S街路	改築	(都) 沼津南一色線	電線共同溝 L=1.00km	沼津市						504	▲	R4
49-A11	街路	一般	沼津市	直接	沼津市	S街路	改築	(都) 上横橋線	電線共同溝 L=0.37km	沼津市						32	○	
49-A12	街路	一般	沼津市	直接	沼津市	S街路	改築	(都) 片浜西沢田線	バイパス L=0.93km	沼津市						37	▲	R5

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

・（都）葛川下俣線（県事業）及び（都）赤土嶺田線（菊川市事業）などの事業箇所について、当計画期間内に都市計画道路の整備（歩道整備）が完了したことにより、通学路の歩道整備率が向上した。

II 定量的指標の達成状況

指標①（通学路の歩道整備率）	最終目標値	75.0%	目標値と実績値に差が出た要因	・一部の事業箇所で、関係機関調整（占用物件移設協議や電線管理者協議等）及び地元地権者との用地交渉が難航したことにより、不測の日時を要したことで、計画期間内の完了が見込めなくなった。	
	最終実績値	72.7%			
	指標②（ ）	最終目標値			目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値			
	指標③（ ）	最終目標値			目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値			

III 定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況

・都市計画道路（幹線街路）の整備により、地域間交流の活性化、交通円滑化による産業活動の支援を図るとともに、生活道路に流入していた通過交通を転換させ、安全で快適な都市生活環境の確保を図ることができる。
・電線共同溝の整備により、景観への阻害や地震時の電柱倒壊による道路閉塞等の被害を防止することができる。

3. 特記事項（今後の方針等）

- ・新たな整備計画に引き継がれて継続中の事業を推進し、都市計画道路の整備をすすめるとともに通学路の歩道整備を進めていく。
- ・引き続き、関係市町と連携し、交通事故のない安全で快適な自転車・歩行者空間の確保に努めていく。

